

- 2046 Wolfgang Schivelbusch 『鉄道旅行の歴史 19世紀における空間と時間の工業化』
加藤二郎訳（法政大学出版局，1982年）
原題: Geschichte der Eisenbahnreise.

ワタシハ鉄道旅行ノコトヲ思イ出シタ

ルイス・キャロル

p. iv

- 2047 Robert Cedric Sherriff 「旅路の終り」北村喜八譯（『世界戯曲全集』5・英吉利篇3（世界戯曲全集刊行會，1930年）p. 389-491）
原題: Journey's End.

トゥロッタ （屈みこんで、表題をよむ）「不思議國に於けるアリスの冒険」——
何だ、子供の讀むものぢやないか。

オズボオン さうだよ。

トゥロッタ そんなもの、讀むのかい。

オズボオン うん。

トゥロッタ 何だつて —— 子供の本なんぞ。

オズボオン 君、よんだことあるかい。

トゥロッタ （輕蔑するやうに）ないよ。

オズボオン 讀んどかなくちやいかんね。（讀む）「鱈はどんな風にして、その
ぴかぴか光る尻尾を改良し、ナイル河の水を黄金色の鱗に注ぎまし
たか。鱈がにたりと笑ひその爪をひろげてゐる様子は、いかにも愉
快さうです。そして、鱈は小さな魚が、笑つてゐる口元へはひつて
來るのを待つてゐるのです」。

p. 454-455

- 2048 Ivan Southall 『ジョシュ ライアン・クリークの三日間』小野章訳（評論社，1975年，児童図書館文学の部屋）
原題: Josh.

ずっとチェシャーの猫（ルイス・キャロルの『ふしぎの国のアリス』にでてくる
にやにや笑うねこ）のように、わけもなくにやにやして、何もあいつらに話さな
かったし、何もあいつらに答えなかった。

p. 61

- 2049 William Olaf Stapledon 『シリウス』中村能三訳（早川書房，1976年，ハヤカワ
文庫SF）
原題: Sirius.

わたしは、『不思議の国のアリス』のような世界においてのみ安住できるの
です。

p. 298-299